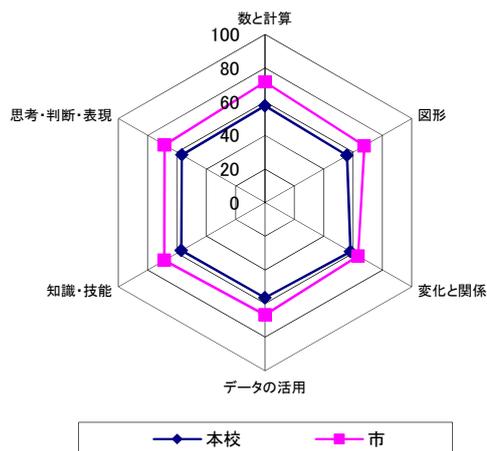


# 宇都宮市立宝木小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	57.6	71.8	76.2
	図形	56.0	67.7	67.8
	変化と関係	58.2	63.4	62.7
	データの活用	56.6	66.7	61.5
観点別	知識・技能	57.0	68.6	70.7
	思考・判断・表現	56.7	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。</p> <p>○小数第一位×小数第一位(純小数同士の乗法)の計算の正答率は、市の平均より下回っているものの、他の問題に比べて7.9ポイントとその差が小さい。</p> <p>●通分が必要な分数同士の足し算の計算の正答率が48.5%と市の平均よりも26.8ポイント低い。また、分数÷分数(約分あり)の計算の正答率が60.6%と市の平均よりも23.5ポイント低い。</p>	<p>・小数同士の乗法の筆算の計算については、定着している児童がやや多い。筆算の書き方や小数点の移動など、計算の仕方を児童同士で教え合い、復習しながら、更に定着度を高めたい。</p> <p>・分数の計算に課題があることから、授業だけでなく、定期的朝の学習の時間やAIDリルなどを活用して、年間を通して繰り返し取り組み、計算の仕方を定着させていきたい。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。</p> <p>○2つの角が与えられた三角形の一つの外角を求める問題の正答率は、市の平均より下回っているものの、他の問題に比べて3.2ポイントとその差が小さい。</p> <p>●三角柱の展開図を組み立てたときに重なる辺の長さを求める問題の正答率が44.4%と市の平均よりも21.2ポイント低い。</p>	<p>・図形の問題は比較的苦手意識なく取り組める児童が多いが、頭の中で図形を組み立てたり、およその面積や体積を想像したりすることが難しい児童が多い。そこで、ICTや実物を活用した授業を行うことで、児童の理解を高め、図形領域の知識技能や活用力を定着させていきたい。</p>
変化と関係	<p>本校の平均正答率は、市の平均と比べるとやや低い。</p> <p>○基準量と比較量から、割合を求める問題の正答率は市の平均より下回っているものの、他の問題に比べて3ポイントとその差が小さい。</p> <p>●速さの単位の関係を理解し、時速を秒速や分速に直す問題の正答率が52.5%と市の平均よりも7.3ポイント低い。</p>	<p>・速さの単位に限らず、既習事項である長さ、面積、体積など単位の換算を苦手とする児童は多い。低学年、中学年の内容についても、朝の学習の時間やAIDリルなどを活用して、年間を通して繰り返し取り組み、換算の仕方を定着させていきたい。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。</p> <p>○折れ線グラフを読み取る問題の正答率が80.8%で市の平均と同等である。</p> <p>●値に0がある連続量の平均を求める問題の正答率が62.6%と市の平均よりも17.7ポイント低い。</p>	<p>・授業では、体力テストの結果やアンケートの結果など身近な課題を取り扱い、興味をもってデータや資料に関わることができるようになることで、それぞれの値の意味を理解できるようにしていきたい。</p>